

平成28年度 国東市：大分県学力定着状況調査結果（小学校：算数）

1 結果のポイント

○全問題数：38問（知識31問，活用7問）

- ・38問中24問が目標値を上回っている。
- ・14問が県の正答率を上回っている。
- ・活用型の問題7問中4問が目標値を上回っている。
- ・課題が見られた問題は、切り上げて見積もることの意味を理解しそのわけを説明する問題、地図から情報を読み取り面積を求める問題等であった。

○領域別，観点別結果

- ・領域別では「量と測定」領域で目標値に達していない。
- ・観点別では，すべての項目において目標値を上回っている。
- ・編差値は領域・観点ともすべての項目で50を上回っている。

○総合質問紙調査 i-check（肯定的な回答の割合）

- ・算数の勉強はどれくらい好きですか。 59.2%（県62.5%）
- ・算数の授業はどれくらいわかっていますか。 79.1%（県81.6%）

2 課題が見られた問題と指導の改善事項（領域別）

（1）数と計算

1 (3) $3\text{桁} \div 2\text{桁} = 2\text{桁}$ （余りあり）の計算ができる。

（正答率 67.2%・目標値 70.0%・短答）【知識】

- ・計算の仕方の誤りによる誤答や、余りをださずに小数点をつけ割り進めている誤答が推測できる。 $2\text{桁} \div 1\text{桁}$ の計算についても目標値に届いていないことから、わり算の筆算の仕方を確実に身につけさせることが必要である。商の見当をたてたり計算のたしかめをしたりすることができるようになることが大切である。

9 四則の混じった式の計算順序を理解している。

（正答率 61.0%・目標値 70.0%・選択）【知識】

- ・誤答にあたる類型1から3が8.2%，13.3%，14.9%となっており，解答にばらつきがみられる。計算順序を正しく理解できていない子どもが多いことがわかる。一昨年度，昨年度ともに目標値に届いていない問題なので時間をかけて復習していく必要がある。

2 1 (2) 切り上げて見積もることの意味を理解し、枚数が足りるわけを説明できる。

(正答率 15.4%・目標値 30.0%・記述)【活用】

- ・ さくらさんの見積もり方は正しいか正しくないのかを判断し、その理由を記述する問題であった。46.2%の児童が、見積もり方は「正しい」と答えることができていたが、そのうちの 30.8%は、わけを記述することが不十分であった。切り上げて見積もること枚数が足りることを答える必要があるが、四捨五入と混同していたり、根拠となる理由が記述できなかつたりしたことが推測される。日常生活での経験と関連づけて、見積もり方を選択して概算し、得られた結果と実際の数値を比べ考察していく活動を設けることが大切である。

(2) 量と測定

1 2 (2) 身近にあるものの面積を推測することができる。

(正答率 27.2%・目標値 35.0%・選択)【知識】

- ・ 対象物の縦の長さや横の長さの見当を誤ったか、対象物を実際よりも小さいものにとらえていることが推測できる。量の大きさについての感覚を身につけさせるために、1 m や 1 m²のものを身の回りから見つける活動を取り入れることが必要である。

(3) 図形

1 4 四角形の対角線の性質を理解している。

(正答率 49.2%・目標値 60.0%・選択)【知識】

- ・ 対角線の長さが等しい図形を選ぶ問題であった。解答類型は、台形 2.1%・平行四辺形 20.0%・ひし形 27.7%となっている。図形を弁別するための根拠となる定義や性質を明確にして、図形を調べたり説明したりする活動を充実させることが大切である。

2 1 (1) 地図から情報を読み取り、面積を求めることができる。

(正答率 21.5%・目標値 40.0%・短答)【活用】

- ・ 長方形、正方形の面積を求める問題であった。図の大きさに判断したこと、図の中に縦と横の長さ以外の条件が含まれていたこと、桁数の多いかけ算だったことなどが誤答につながったと推測できる。日常の授業のなかで、過剰な情報を含んだ場面や事柄を提示し、それらの中から問題解決のために必要な情報を選択する活動を取り入れることが大切である。

3 指導の改善のポイント（全体を通して）

（1）問題解決的な学習（算数的活動）の充実

- 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等のバランスを重視し、既習の知識や技能，考え方を活用し、問題解決の過程を児童が主体的に行うことができるような場面を設定する。

例えば

- ・図や表を観察して、問題解決に必要な情報を選択したり読み取ったりする。
- ・日常生活の事象の解決に、概数や概算を活用して、目的に応じて合理的かつ能率的に判断する。

等の授業を「全国学力調査問題」「授業アイデア例」を活用し実施する。

- 言葉・数・式・図・表・グラフなどを用い、自分の考えたことを表現したり、友だちに説明したりする活動を重視する。
- 算数的活動の楽しさや数理的な処理の良さに気付く場面を設定する。

（2）ねらいを達成するための言語活動の充実

- 「授業のねらい」「言語活動」「評価」の内容を一致させ、児童の考えたことや表現したことが「授業のねらい」とつながるようにする。
- 「数量や図形，数量関係を考察して見いだした事実を確認したり説明したりする」「問題を解決するために見通しをもち、筋道を立てて考え、その考え方や解決方法を説明する」「論理的に考えを進めてそれを説明したり、判断や考えの正しさを説明したりする」等の場面を設定する。

（3）見通しを立てたり、振り返ったりする活動の工夫

- 結果や解決の方法等を予想させ、課題を共有させる（やるべきことの見通しを立てる）。
- 学習したことをまとめたり整理したりする場面を設定する。
- 適応問題や評価問題に取り組みさせ理解や定着状況を確認する場面を設定する。

（4）数学的な用語を使った表現力の育成

- 数学的な用語を教えるだけでなく、その用語を使い、説明させる場面を設定する。

（5）その他

- 指導教諭や学力向上支援教員、習熟度別指導教員等の優れた実践を広げる。
- 家庭での学習習慣を身に付ける適切な指導を行う。